

水災害対策プラン（いわた流域治水共創プロジェクト）の概要

■流域治水とは

・近年の気候変動等の影響により、雨の降り方が局地化・集中化・激甚化するなど毎年各地で水害による大きな被害が頻発しています。

・国土交通省による試算では、現在の気候に対し、気温が2度上昇した場合の降雨量は1.1倍になると推定され、洪水発生頻度も約2倍になるとも示されています。

・住民一人ひとりに至るまで流域のあらゆる関係者が主体的かつ協働し、流域全体で行う持続可能な治水対策である「流域治水」への転換が必要です。

・流域治水は、地域の特性に応じ、①氾濫をできるだけ防ぐ、減らす対策、②被害対象を減少させるための対策、③被害の軽減、早期復旧・復興のための対策を、ハード対策・ソフト対策一体で多層的に強力に推し進めていくものです。



■水災害対策プランとは

・気候変動による将来的な降雨量の増加も踏まえ、河川及び流域での長期的な対策の取組みを念頭に、近年発生した洪水に対して、浸水被害等の軽減を図るための施策をまとめたものです。

・静岡県は、流域治水の考え方にに基づき、特に浸水被害が著しい流域や令和4年台風第15号による浸水被害が大きかった地域など、県内15流域（21地区）を「重点対策流域」に位置付け、流域市町とともに「水災害対策プラン」の策定に取り組んでいます。

・本市では、太田川流域の「仿僧川・今ノ浦川流域」、敷地川流域、天竜川流域の「一雲済川流域」において、水災害対策プランを策定し、河川管理者による河川改修を進めることはもとより、住民一人ひとりに至るまで流域のあらゆる関係者が、浸水被害の実態や原因、対策の目標について認識を共有しながら、各々が取り組むべき「流域治水」の実現を図るための対策を、短期的な取組と長期的な取組に位置づけ、それぞれの目標達成を目指します。



■いわた流域治水共創プロジェクト ～ みんなで減らそう!! 浸水被害 ～ と

・静岡県と本市が連携し策定した水災害対策プランのうち本市が取り組む対策です。

・関係部署で、それぞれ計画した目標を達成するため、共創により対策に取り組んでいきます。

・住民一人ひとりに至るまで流域のあらゆる関係者が、水害リスクを自分事と捉え、浸水被害の軽減について考え行動しましょう。



■令和4年台風第15号における浸水被害の原因

仿僧川・今ノ浦川流域

・今ノ浦川では、ポンプ場の排水能力不足や、今ノ浦大橋～中川橋間の河川流下能力の不足による接続水路の排水不良により、地盤の低い地域を中心に内水氾濫が発生しました。

・磐田久保川、半ノ池川では、河川流下能力の不足による外水氾濫、また背水の影響で接続水路が溢水し、内水氾濫が発生しました。

一雲済川流域

・令和4年台風第15号の総雨量（豊岡雨量観測所）は、観測史上最大のもので、河川計画上想定する降雨をはるかに上回りました。

・上野部地区（上野部川・雨垂川）では、河川の流下能力不足に起因する外水氾濫（越水・溢水）が発生しました。

・下野部地区（一雲済川・田川沢）では、外水氾濫に加え、周辺に比べ地盤高が低いこと等による内水氾濫（排水不良）が発生しました。

敷地川流域

・下田橋付近で上流から流下してきた大量の流木が堆積したことで、流れが阻害されました。

・河川の流下能力を大きく上回る水が流れた結果、流下能力の低い八十田橋～稗田橋間において越水し、堤防を乗り越えた水が堤防の背面を徐々に削り取って堤防が決壊したと考えられます。

■水災害対策プラン（いわた流域治水共創プロジェクト）の目標と取組の考え方

・気候変動による「これまでに経験したことのない集中豪雨が頻発する」という認識のもと、河川管理者による河川改修を進めることはもとより、国・県をはじめとする関係機関や企業、住民一人ひとりに至るまで流域のあらゆる関係者が、浸水被害の実態や原因、対策の目標について認識を共有し、流域全体が一体となった治水対策を協働して取り組む「流域治水」による対策を推進することとし、令和4年台風第15号、令和5年台風第2号と同規模の降雨や河川整備における将来計画の降雨量の1.1倍の降雨に対して、壊滅的な被害を回避するため、「家屋浸水被害（床上）や道路冠水等の浸水被害の軽減、逃げ遅れによる人的被害をなくすこと、氾濫発生後の社会機能を早期に回復すること」などを目標とし、河川対策や流域対策のハード対策と避難対策や復旧対策などのソフト対策に取り組み、それぞれの対策を達成することを目標としています。



水害リスクを自分事と捉え考え行動しよう!!



■水災害対策プランの基本方針■

項目	短期的な取組	長期的な取組
目標	①家屋被害（床上浸水）を極力軽減すること ②道路冠水を極力軽減すること ③逃げ遅れによる人的被害をなくすこと ④氾濫発生後の社会機能を早期に回復すること	①家屋被害（床上浸水）を軽減すること ②道路冠水を軽減すること ③逃げ遅れによる人的被害をなくすこと ④氾濫発生後の社会機能を早期に回復すること
対象区間	仿僧川・今ノ浦川・半ノ池川・磐田久保川・祝川・旧仿僧川・磐田田中川・安久路川・倉西川・古川 一雲済川流域の「下野部地区」「上神増地区」・上野部川流域の「上野部地区」敷地川流域	仿僧川・今ノ浦川流域 一雲済川流域の「下野部地区」「上神増地区」・上野部川流域の「上野部地区」敷地川流域
対象期間	プラン策定（R6年）から概ね10年	将来
対象外力	令和4年9月洪水 台風第15号相当の降雨	令和4年9月洪水 台風第15号相当の降雨 将来計画の計画降雨量（確率1/50）の1.1倍

■水災害対策プラン（いわた流域治水共創プロジェクト）の取組内容

・氾濫をできるだけ防ぐ、減らすための対策としては、雨水を速やかに排除するため、河川等の流下能力を向上させる対策、流出量のピーク及び総量を減少させ、河川への流出を抑制する対策が挙げられ、具体的には、主に河川（河道）の流下能力の維持向上や流域内における雨水貯留・浸透機能拡大のための雨水貯留浸透施設の整備などが該当します。

・本プランに位置付ける施策の検討にあたって、長期的な取組においては、現時点で考え得る各管理者の治水対策を設定し、短期的な取組においては、今後10年間で実施する、現時点で考えられる具体的な実施内容（規模、数量等）を設定しました。ただし、流域内での雨水貯留・浸透機能の拡大等については、実施者の「協力」のもと行う施策もあるため、行政機関が実施者となる場合は具体的な対策を設定するが、住民等が実施者となる場合は、当該施策が推進されるための環境整備に必要な対策内容を設定します。

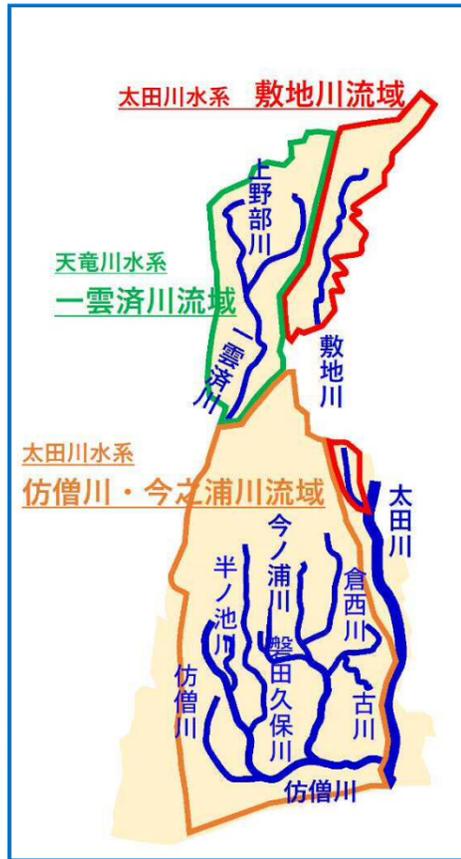
■プランに位置付けた主な取組

氾濫をできるだけ防ぐための対策

仿僧川・今ノ浦川流域

二級河川	※効果予測の対象とする短期対策	県
太田川	✓ 太田川の河道拡幅	
仿僧川	✓ 仿僧川(9.5~11.5k)の河道拡幅	
今ノ浦川	✓ 今ノ浦川(2.5~3.4k)の河道拡幅 ✓ 倉西川(0.0~2.3k)の堤防嵩上げ ✓ 古川(0.0~2.53k)の堤防嵩上げ	
堤防嵩上げイメージ	下流堤防高相当まで嵩上げ	
河道拡幅イメージ	1/50計画河床まで河床掘削	
太田川	✓ 太田川の1/50計画河道への改修	
仿僧川	✓ 仿僧川、磐田田中川、祝川、旧ぼう僧川の1/50計画河道への改修	
今ノ浦川	✓ 今ノ浦川、古川、倉西川、磐田久保川、半ノ池川、安久路川の1/50計画河道への改修	

準用河川	✓ 加茂川の側壁嵩上げ	県・市
排水路	✓ 中川幹線見付樋門整備 ✓ 中川幹線見付ポンプ整備	
調整池・排水機場等	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 施設操作ルールの見直しによる洪水調節効果の拡大(安久路調整池、柴田山調整池、向陽調整池、大池) ✓ 貯水容量の確保(大池) ✓ 水堀川遊水地整備(水堀川)、柴田山調整池整備(今ノ浦川) ✓ 逆流を防止するための樋門等の整備(古川・倉西川) ✓ 磐田久保川の側壁嵩上げ ✓ 築町地内排水路側壁嵩上げ ✓ 西御殿地内バイパス水路整備 ✓ 水門・樋門・雨水排水ポンプ場の的確な維持管理・更新 ✓ 施設の更新・長寿命化(浜部排水機場、中瀬排水機場) ✓ 鳥之瀬排水ポンプ場の増設 ✓ 今ノ浦第1ポンプ場の建替え ✓ 雨水排水ポンプ場・湛水防除排水機場の耐水化 	
調整池・排水機場等	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 今ノ浦第2、第3ポンプ場の更新及び建替え ✓ 一言調整池整備(半ノ池川・磐田久保川) ✓ 安久路川遊水地整備(安久路川) ✓ 交通安全センター調整池整備(加茂川) ✓ 上野公園調整池整備(磐田久保川上流) ✓ 半ノ池川バイパス水路整備 	
その他(短期・長期)	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 圃場整備、森林整備 ✓ 都市計画法開発許可に伴う調整池設置の指導 ✓ 歩道舗装(透水性舗装) ✓ 田んぼダム(水田貯留等) 	県・市・住民



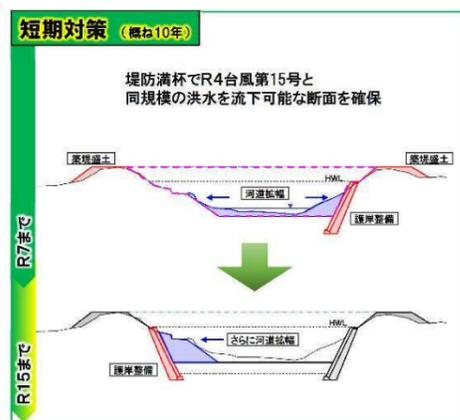
一雲済川流域

二級河川	※主な長期対策	県
一雲済川	✓ 0.0~6.0kの河道改修(1/30) ✓ 一雲済川の遊水地整備	
上野部川	✓ 上野部川の遊水地整備等	
準用河川・普通河川		県・市
田川沢	✓ 0.0~1.388kの河道改修	
雨垂川	✓ 0.0~0.764kの河道改修	
その他(短期・長期)	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 圃場整備、森林整備 ✓ 都市計画法開発許可に伴う調整池設置の指導 	県・市・住民

二級河川	※主な短期対策	県
一雲済川	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 2.7~4.9kの河道改修(1/5) ✓ 5.0~5.1kの暫定整備(清水橋上流) ✓ 6.0kの暫定整備(谷口橋上流) 	
上野部川	✓ 上野部川放水路の整備	
準用河川・普通河川		県・市
田川沢	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 田川沢堤防嵩上げ ✓ 田川沢遊水地の浚渫・改修 	
雨垂川	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 雨垂川屈曲部の対策 ✓ 雨垂川下流遊水地の整備 	
調整池	✓ 豊岡支所地下調整池の整備	



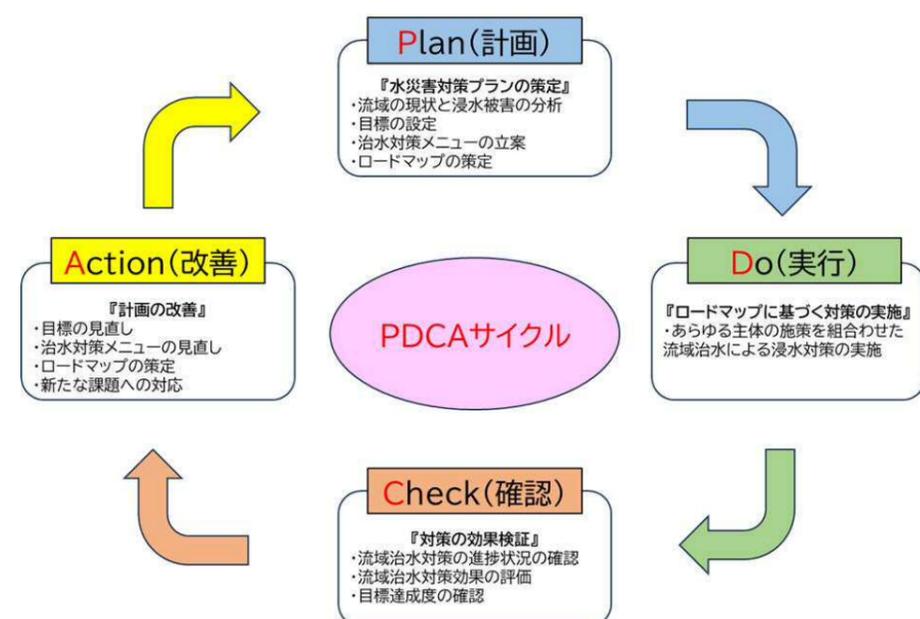
敷地川流域



みんなと頑張りますよ
みんなが頑張りますよ

■水災害対策プラン(いわた流域治水共創プロジェクト)の今後の進め方

- ・対策効果の早期発現のため、「水災害対策プラン(いわた治水共創プロジェクト)」に位置付けた取組を実施する一方で、引き続き協議会を開催し、PDCAサイクルによる対策の実施、毎年の進捗管理と中間年次における効果検証、必要に応じてプランの見直しを行いながら、目標の確実な達成に向けて関係部署が連携して取り組みます。
- ・今後更なる流域対策の推進を図るため、「氾濫をできるだけ防ぐ、減らす対策」には「新たな流域対策の掘り起こし」を施策に位置付け、全国的な事例や新たな知見を踏まえ、新たな流域対策の検討を行います。
- ・取組期間中に、短期的な取組の対象外力を上回る規模の水害が発生した場合、当該水害を分析の上、水災害対策プランの対象外力の見直しも含め、プランの検証(PDCA)を行います。



被害対象を減少させるための対策

被害の軽減・早期復旧・復興のための対策

- 市 都市計画法開発許可に伴う土地利用の適正指導
- 市 地域防災力の強化(水防・避難訓練、出前講座)
- 市 浸水センサ・カメラの設置
- 市 SNSを活用した情報収集・情報提供
- 市 浸水から逃げるための高台避難場所の確保
- 市 道路冠水対応
- 市 ハザードマップの作成・利活用

